

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902140		
法人名	有限会社 本間サービス		
事業所名	グループホーム こもれ陽		
所在地	北海道旭川市春光台3条9丁目2-18		
自己評価作成日	平成25年10月15日	評価結果市町村受理日	平成25年12月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902140-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成25年 11月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旭川市春光台の高台に位置し、周りには木々もある立地条件の良さを活かし、静かな環境で入居者の皆様には穏やかに生活できるよう援助している。散歩の時間には近隣住民の庭に咲く花を見たり、触ったり、北海道療育園さんの芝生で休んだりと自然に触れ合う時間を作るよう配慮している。 ドライブをしたり、庭で作るトマトなどの農作物の収穫をしたりしながら、それぞれのADLの低下防止に努め、QOLの向上を目標にして援助している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、介護施設に勤務していた代表者が、経験を生かし開設して8年が経過しています。隣接している系列のグループハウスとは、行事、災害時、利用者間の交流等で連携があります。玄関にはボランティアによる花が活けられ、採光や温湿度、清掃に配慮された居間には常に利用者が寛いでおり、穏やかな雰囲気を醸し出しています。グループハウスと合同の納涼祭には、家族はもとより、運営推進会議のメンバーや多数のボランティアの支援をいただき、地域交流の場となっています。職員は利用者の心身に寄り添う支援に努めており、結果として利用者の介護度が低くなるなど良質なケアサービスを提供しています。このホームで暮らし続けられて良かったと思われるホーム作りを目指している「グループホーム こもれ陽」です。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に「地域の人たちと歩む、日々の暮らし」を掲げ、町内を散歩したり、施設長自ら地域の老人会に参加し交流を図っている。町内の行事は天候・体調などを考慮し参加させていただいている。	職員の支援の下、利用者が地域の一員として暮らし続けられることを念頭に4項目からなる理念を掲げています。理念をパンフレットに記載、居間に掲示、さらに職員会議等で認識を新たにしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園の運動会（総練習）見学や、地域の行事への参加を継続している。	地域とは相互の行事（祭等）で交流があります。保育園での遊戯会や運動会の総練習見学、七夕祭りで来訪の子供達との触れ合いがあります。系列の施設と合同の納涼祭には、家族はもとより多数のボランティアの協力をいただいています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパーの講座を持つ高校や専門校で講師をしたり、認知症を抱える家族の会役員とも連絡を取り合って情報交換を図っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年通り、年6回の開催を通して、年内の行事や運営状態などを報告している。参加委員からも質問や意見をいただき運営に反映できるようにしている。	課題であった家族の参加も得て、会議は定期的に行われています。会議ではホームの活動状況を報告し、議題に沿った意見や提案を運営に生かしています。なお、メンバーの方には菜園整備等の支援をいただいています。	会議は、地域に開かれたサービスをすることでサービスの質の確保を図る事が目的であり、議事録をホーム内での掲示や家族全員に配布することを検討され、柔軟なメンバー構成による会議の活性化を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員が参加していることもあり、日ごろのわからない面などを相談するとともに、介護保険を使う施設として不明点や相談事などあれば、市の担当課を訪れ助言をいただくようにしている。	行政とは実地指導や各種報告・認定時、ホームの課題等で情報や意見交換があり、ホームの質向上に繋がっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は緊急やむを得ない状態以外は行わない方針で運営しているし、現段階まで心身に緊急を要する場面は表れていないため、身体拘束は行っていない。	身体拘束をしないケアは、当たり前のこととして職員は認識しています。外部研修やその後の伝達講習などにおいて、職員の理解に繋がっています。ただし、身体拘束防止マニュアルに禁止の対象となる具体的な行為11項目の記載が十分ではありません。	虐待を含め身体拘束の内容とその弊害については、マニュアルの整備や勉強会を開催するなど、身体拘束防止に向けて更なる理解を深める取り組みに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日ごろの施設内環境づくりを心掛け、ゆとりをもって入居者にかかわることで、虐待を防止できると思い取り組んでいる。研修会など参加する機会があれば、参加を促していく。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングや研修の場への参加を促し、成年後見人について理解を深めることができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	金銭面、安全配慮については重ねてお話をを行い、理解をいただけるようにしている。また、わからないことはいつでも相談してくださいとお話をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの要望などには、よく内容の確認を行ったうえで対応している。意見箱の設置など、口頭で伝えにくい内容への配慮も行っている。	家族には、利用者の暮らしぶりを、来訪時や電話、定期的に発行しているホーム便りなどで伝えています。意見箱の設置や外部相談窓口を周知し、利用者や家族との関わりの中で運営に関する意見を受け止め解決策を検討しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	働きやすい職場環境をつくるよう心掛けている。チームケアの大切さを常日頃から、職員に伝えるようにしている。	代表者は必要に応じて職員の面談や、外部研修の参加を促し、シフトの調整に配慮するなど、職場環境の整備に努めています。納涼祭に向けて職員からアンケートを取り、催し物や模擬店等の検討をしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティング時のフリーの時間は継続してとっており、入居者のこと、その他何でも話し合える機会を設けている。また、必要時には面談の時間も設け、1対1で話を聞く時間を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部での研修への参加を積極的に勧めている。今年度は日本認知症GH協会の大会が盛岡で開催され、職員2名が参加し、全国の事例を聴く機会を作ることができた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設間交流の一環として、今年度も1泊旅行研修を企画したが、互いの施設間で都合がなかなか折り合わず、延期となってしまった。次年度はぜひ開催したい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添う介護を基本とし、傾聴や同意など、精神的なケアへの配慮を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や意見には真摯に耳を傾け、一緒に解決していく姿勢を持って対応させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者およびご家族の話を十分に傾聴することから、適切なアドバイスをすることで、本人・家族の希望が見えると思って、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事おやつを共に食べ、一緒に掃除をし、活動することで暮らしを共にする意識付けを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告や面会時の情報提供などを行いながら、家族とも情報を共有し、共に本人を支えていく関係づくりの一環としている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	盆、正月などの帰宅など、関係の継続になるよう対応している。	馴染みの店での買い物や美容室へは、家族の協力もいただき支援しています。友人、知人の来訪時には居室に案内しています。ドライブで旭川空港や花見の名所等を訪れて懐かしい風景を楽しんでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなでレクを行ったり、食事や体操を行ったりと相互に係わりを持ちながら生活できるよう援助している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、施設運営にご協力いただけたり、退去先での様子を聞くなどし、必要があれば相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人らしく生活できるよう、援助している。	利用者一人ひとりの心身の状態を職員は共有し、思いや意向を汲み取っています。ホームの基本方針に寄り添う支援を掲げ実践に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴を伺い、住みよい住居作りや周辺環境作りに取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要以上のケアは提供せず、できることはなるべくご本人にさせていただきよう、声かけ・見守りを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中から、その人にあったケアのあり方について話し合い、良いアイデアは取り入れながら、処遇改善に繋げている。	介護計画は利用者や家族の生活に対する意向を捉え、日々の記録や医療関係者の意見を参考に、計画作成担当者が立案しています。毎月2名の職員が、利用者の全体像を記録しています。	介護計画の整備（家族の同意日欄の設定）に加え、職員しか知り得ない気づきや意見を話し合った結果が反映される計画を作成し、日々の記録で計画の実践が確認できる体制作りに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化や気づきについては、日々の記録以外にも連絡ノートを活用し、情報の共有に役立つようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り、各個人のニーズに添えるよう対応している。家族からの希望も同様に対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園や、地域の行事への参加、日帰り温泉などを企画し楽しい生活を送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を聞き、かかりつけ医を含め、必要な専門医受診を心掛けている。	利用以前のかかりつけ医や他科の受診は、ホームが対応しています。また、協力医による月2回の往診支援もあり、適切な健康管理が行われ診療内容は家族に報告しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の出来事、変化についてはメモを残す、口頭で伝える等しながら、医療的な支援・支持をいただくようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の検討については、対象者発生時には細かく行うようにしている。面会も随時行い、安心して治療に望めるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状や状態の変化については、その都度ご家族へ連絡し、家族・施設・医師が情報を共有できるよう心掛けている。終末期に向けてのアプローチはより細かく、ご家族、本人の希望に沿えるよう対応している。	重度化や終末期に向けた指針と同意書を整備しています。これまで看取りを経験していますが、長期的な医療行為が発生した場合は、医療機関等での支援としています。	ホームとして出来ること出来ないことの明文化、終末期における意思確認書の整備、職員のさらなる知識や技術の習得、家族や医療関係者と段階的に協議され方針を共有するなど、チームケアへの取り組みに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、施設長、主治医への連絡マニュアルを使用し、素早い対応を心掛けている。事故についても同様に努めながら、事故予防にも注意を払っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応については、年2回の避難訓練を実施、訓練後の講評を次回につなげるようにしている。	年2回、夜間想定避難訓練を計画し、1回目が終了しています。災害時備蓄品はポータブルストーブ、飲料水など、随時準備をしています。地域住民の方々との協力体制は、継続しての課題としています。	非常時には地域との連携が重要となりますので、あらゆる場面を想定し、運営推進会議のメンバーへの訓練参加要請、緊急連絡網を使つての避難場所への実践的訓練、日常的な防災チェック等の検討を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にもあるように、「その人らしさや尊厳を持てる暮らし」を目指している。言葉使いや接遇面の充実を心掛けている。	職員は利用者の人格を尊重し、優しさや暖かみのある対応を心掛けています。個人記録の取扱いや保管も適切に行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定は利用者にしていただけるような、声かけを実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各個人の生活ペースをもとに援助している。食事の時間の個別化や外出の対応等、できる範囲での対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣も個人の好みを優先し、選んでいただける声かけ、援助を目指している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげ摘みやゴマすりなどをお願いしている。その他に配膳下膳やテーブルの準備、片付けをお願いしている。	利用者の持てる力を発揮出来る場面作りにも配慮しながら、栄養バランスや彩りある食事を提供しています。誕生会などの行事食には利用者の希望を取り入れています。菜園での収穫物を食材にしたり、外食などで変化を付けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事水分量のチェックを行っている。夏季は水分・塩分などに気をつけ、熱中症や脱水に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食行い、必要時は往診の歯科衛生士に指導いただくこともある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の希望の沿いながら、トイレ誘導を行っている。	利用者の状態に合わせ、下着の着用や最小限の衛生用品を使用しています。チェック表や仕草から察知した職員の支援の下、全ての利用者がトイレを使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や規則正しい生活を送り便秘予防の一環としている。水分摂取量などにも配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回行い、その他随時シャワー浴などの対応を行っている。	入浴日は月曜日と金曜日の午後としていますが、希望があれば入浴日以外でも可能です。状態によりシャワー浴もありますが、職員の見守りの下、全ての利用者が浴槽に入っており、ゆったりとした環境への配慮があります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休憩、夜は21：00の消灯時まで自由に過ごしていただいている。テレビ番組によっては消灯時間も延長して楽しんでもいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常勤職員が、医師の指示の元管理を行っている。副作用や服用方法などわからない場合は医師・薬剤師へ確認を行いながら、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のリハビリ体操、外出(散歩など)、映画鑑賞、塗り絵、契り絵などで気分転換を図っている。役割としては、洗濯物を畳んでいただく、館内の掃除など。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場は散歩の機会を多く作るようにしている。家族の都合もあるが、外泊、お墓参りなど出かけることもある。	天候の良い日はホーム周辺を散歩し、近隣の庭を眺めたり菜園でトマトを収穫したりと、気分転換を図っています。日帰り温泉旅行やドライブなども企画し、外気に触れる機会を提供しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に外出し、自分の好みのものを購入し喜ばれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけることもある。また、ご家族が施設へ電話を下さることもあり、楽しげに話されていることもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小さな施設ではあるが、利用者に生活し易い、意心地のよい家庭的な空間を目指している。	玄関にはボランティアによる花が活けられ、神棚が設置された居間には明かり採りの天窓から柔らかな光が射しており、ホーム全体が穏やかな空間になっています。職員の作品である「書」や行事での写真が掲示され、理念の一節である「安らぎのある暮らし」が実践されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で休憩したり、テレビを観たりと自分のペースで生活している。ソファに座ったり、椅子に座っていたりとそれぞれ自由に過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ペットに関しえては遠慮いただいているが、使い慣れた家具などは、居室に入るものに関しては遠慮なく持込いただいている。	押し入れが設置された居室には、温湿度計や呼び出しベルも用意されています。利用者の動線に配慮された家具や調度品、飾り物などが、安らぎのある住まいになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子が通れるスペースや手摺りの設置、テレビ前には大きめのソファを置いている。建物内の移動は本人の意思を尊重し、居室・フロア自由に行き来している。職員は常に見守りを行うようにしている。		